

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	<p>コミュニティセンター3 棟（ギドラヒ村、チャルバルクルワ村、ラニパティ村）が完成し、幼児教育や小学生の補習授業、研修、お祭り、イベント等に使用されるだけでなく、政府による米の配布やグループ会議などで使用されるようになったことで、政府からの支援や教育が下位カーストや貧困層にまで届くようになった。また、コミュニティセミナーによって、地域の問題点や住民の権利（例：12,000 ルピーのトイレ建設補助費支給）を住民が理解できたことで、地域のリーダーや政府に対して要求等を行えるようになった。加えて、各種の能力向上研修によって、女性自助グループ（SHG）メンバーの収入向上、持続可能な農業のための有機農業の必要性への理解、保護者の幼児教育への理解の向上による小学校進学率の増加と中退率の減少および女子児童教育の必要性への理解が増し、住民意識の向上がみられるようになった。</p> <p>これらの活動によって、事業村および周辺村では、公共道路の整備、電柱の設置、高等学校や保健所の建設を政府が開始したことから、住民の生活環境の改善が見られるようになった</p>
(2) 事業内容	<p>1. コミュニティセンター3 棟の建設</p> <p>ローカースト、ハイカーストが意思疎通できる場として、今期は、政府から寄贈された土地（ギドラヒ村、チャルバルクルワ村）および住民から寄贈された土地（ラニパティ村）にコミュニティセンター（3 棟）を建設した（事業3 年間全体では計8 棟）。建設にあたって、日本から小泉伸容建築専門家、現地からはスーパーバイザーとして Sinha Associates を16 回派遣し、図面通りに完成した。また、2015 年4 月サイクロンの被害を受けた、スカソンとロータのセンター（第1、2 期建設）の修復工事を行った。</p> <p>●コミュニティ・セミナーの開催</p> <p>●モビリゼーションセミナー</p> <p>Peter Lasrado により2015 年6 月、2015 年11 月、2016 年4 月に10 村を対象にセミナーを実施した（参加者は計7 回で村人485 名、スタッフ他22 名計507 名）。研修では、女性が地域外へ出ることが許されない点や、下位カーストに対する差別などの問題について話し合い、それらの問題改善のために多目的かつ村人が集まれるセンターの建設、住民の能力開発セミナーの実施等の事業内容と目的を説明し、住民の自主性と協力の必要性を仰いだ。</p> <p>●コミュニティ開発セミナー</p> <p>佐藤静代専門家を日本から派遣し、2015 年6 月、2016 年1 月に10 村の住民を対象にセミナーを実施した（参加者は計6 回で416 名）。研修では、社会、経済、文化、教育の4 側面で大切なことを議論し、自分達で教え合うこと、地域にシンボルを作ること、会議における合意を持つことの重要性を共有した。また、社会経済における互助、貧困者や弱者への配慮の必要性、8 村のセンターの管理運営について討議した。</p>

●リーダーシップセミナー

ウェインエルスワース専門家を日本から派遣し、11月に5村を対象にセミナーを実施した（参加者は計3回で村人181名、その他スタッフ研修22人）。研修ではリーダーシップを発揮する上で直観、自信、目的、達成意識を持つことの重要性について教示した。

ローカルスタッフによる幼児教育教師を対象にリーダーシップトレーニングを実施した（参加者は計1回で22名）。時代とともに変わるリーダーの在り方を学び、自分自身の姿勢を振り返った。また、大学進学など自分自身の将来達成したいことを考え、それらに優先順位をつけ、未来を考える機会を作った。

ウェインエルスワース専門家によるコミュニティ開発セミナーが10月と2月にGopalpur村、Rohta村の2ヶ村で実施された。第1回目は、女性自助グループ、農民グループ、青年グループ、幼児教育者等各組織のリーダーに問題解決力、実践行動力、コミュニケーション力等、地域の問題解決に向けて行動を推進していけるリーダー（ファシリテーター）の育成を行う。また、マネージメント能力、会議運営スキルを指導する。（1ヶ村あたり50名）第2回目は、

- ・第1回：10月12日Rohta村にて実施 参加者75人
- ・第2回：10月14日Rohta村にて実施 参加者105人
- ・第1回：10月12日Gopalpur村にて実施 参加者150人
- ・第2回：10月14日Gopalpur村にて実施 参加者85人
- ・第2回：2月19日Rohta村にて実施 参加者95人
- ・第2回：2月20日Gopalpur村にて実施 参加者82人

●能力向上トレーニング及び啓蒙活動

ICAはマデープラ郡にある434ヶ村の中で、最も貧困な地域として指定されている10ヶ村(Korlahi, Jamuaha, Gidrahi, Gopalpur, Charbarkurbi, Sukhasan, Rouda, Haribola, Barahkurva, Ranipatti)をモデルプロジェクト地域として、以下のトレーニングを実施した。

①女性の自助グループ (Self Help Group) 経営研修

Ranipatti オフィスの敷地内にてRohta村Gopalpur村の女性グループを集め、講師Ms. Neel Prabhaによる研修を開催した。

8月28日～8月30日の3日間の予定であったが、29日は現地の祭りのため急遽2日間に凝縮した。

- ・8月28日/14グループからそれぞれ4、5人が参加
参加総人数68人（Rohta村、Gopalpur村）

現地コーディネーターのリマからこの研修の意義を説明。

様々なゲーム形式で、住民同士の繋がりの大切さを認識させた。

その後、SHGの概念と重要性・特性・より良い機能を働かす為のグループリーダーの役割・SHGの効用と3つの項目に分け、絵を用いて説明した。

- ・8月30日/25グループからそれぞれ2、3人が参加
参加総人数78人（Rohta村、Gopalpur村）

一同が輪になり伝言ゲームを行い、情報の確実さ、真実さがいかに大切か理解をした。その後、SHGの働きの基本方針と利益性（良い

グループ経営に必要とされる4つの段階) SHGの中ですべき事、すべきでない事、成功と失敗の原因について SHGでの女性の開発、社会的開発と3つの項目に分けて図や絵を用いて説明した。

第1期事業では10ヶ村から56グループ参加し、銀行から低金利(12%の利息)で借りるマイクロファイナンスの基礎知識として、借り入れ方法、グループ内での資金の回転方法、返済方法を指導した。本事業では21グループを追加し、合計で77グループの女性リーダーにマイクロファイナンスを実際に運用するための経営トレーニングを指導する。

②女性の収入向上研修

Ranipatti オフィスの敷地内にて Rohta 村 Gopalpur 村の女性グループを集め、講師 Mr. Bharat DBMurmu による研修を開催した。

本事業では上級編として鶏やヤギの飼育、家畜の病気への対処、地元資源の活用方法(竹、麻繊維)とマーケットリサーチ等を指導する。

(77グループから選出されたリーダーとサブリーダーの2名、合計154名)

・3月8日/25グループからそれぞれ4名合計100名参加

③有機農業と水耕栽培研修

a. 日本人による水耕栽培指導

伊澤農業専門家により、第1期同様のPOT式水耕栽培を紹介、指導するとともに、村で一番手に入りやすい牛糞を使っての効果的堆肥の作り方を指導した。第2期では、現地の住民と常に接することのできる現地スタッフにもトレーニングの内容を把握し習得してもらい、農民が困った時にすぐに相談、対応、対処できることも目的の一つとした。また、土耕以外の方法でも色々な野菜を作ることができることを理解してもらうことに努めた。また堆肥作りに関しても、村で簡単に手に入れることのできる牛糞、わら、草、竹を使い女性でも簡単に作ることができる方法を指導した。

第1日 10月14日 ラニパティ村 参加者50人

POT式水耕栽培指導

第2日 10月15日 ラニパティ村 参加者75人

堆肥の作り方指導

第3日 10月16日 ジャムハ村 ギトラヒ村 参加者75人

POT式水耕栽培指導

第4日 10月17日 ジャムハ村 ギトラヒ村 参加者80人

堆肥の作り方指導

第5日 10月18日 スカサン村 参加者45人

POT式水耕栽培指導：堆肥の作り方指導

第6日 10月19日 サハルサ(教会：Ft Preetan) 参加者20人

POT式水耕栽培指導

第7日 10月20日 ラニパティオフィス ローカルスタッフ9人

POT式水耕栽培溶液作成指導：堆肥の作り方指導

b. 現地農業専門家による有機農業トレーニング

HCDIの農業講師 Mr. Kiran 氏による農業指導が5ヶ村(コルラヒ、ジャムア、ギドラヒ、ラニパティ、スカサン)5日間の日程で実施された。

実施期間 2月15日～19日の5日間

④青少年及び女性のための技術訓練

マデープラ郡の10ヶ村には、溶接技術がないため、農機具や自転車、鍋、釜などが壊れた場合でも修理ができずにいる。第1期事業では、2年間の訓練期間の全課程を終了できることを条件とし、有志の若者を募り、ICA、HCDI、村落開発委員会によって選抜された青少年8名に対し、自動車整備、自転車修理、コンピューター、電気等の訓練を行った。2年間の訓練を終了した後は、技術者として独立することを目指す。本事業では、訓練の2年目として、さらに1年間コルカタ州の訓練学校(St. Peter's Vocational Training)で訓練を受けさせ、将来の技術者を養成する。

また、女性については村から出ては行けないとの決まりがあるため、村の中で洋裁の訓練を実施する。本事業では第1期事業実施中から研修要望があった5ヶ村(Routa, Ranipatti, Gopalpur, Barkurwa, charbarkurwa)から10名ずつ、合計50名に洋裁訓練をする。

⑤幼児教育教師を対象とした研修

Dr. Aditya Nathによりパトナで行なわれ研修にはECCから10名の教師が参加した。

第2期では保育と教育の必要性について、下記の6つのセッション内容

セッション(1) 早期幼児教育の紹介

セッション(2) 教育哲学

セッション(3) 子どもの発達

セッション(4) 教授法と子どもを評価する種々の方法

セッション(5) 幼児教育

セッション(6) 育児と児童心理学

実施期間 1月15日～17日の3日間

⑥演劇による啓蒙活動を行うための研修

メイントレーナーのAnand神父とアシスタントトレーナーのMr. Vivekanand Brahmacharyによりバラナシで行なわれた研修にはマデープラからソーシャルワーカーとボランティアの合計10名が参加した。研修では毎朝ヨガやジョギングで精神力を高め、参加者の殻を打ち破るために、恥じらいや困惑、抑制といった感情を無くす訓練を行なった。また、発生練習、パントマイムにより表現力や創造性を高める訓練を行なった。演劇のテーマは、薬物及びアルコール依存症とそれらの違法売買、携帯電話の悪用など。研修終了日の前日にはMaheshpur村で観客を動員し講演を行ない、その後対話を行なった。

実施期間 12月3日～10日の8日間

(3) 達成された成果	<p>申請書に記載された「期待される成果」がどの程度達成されたかを記載して下さい。事業として行われた活動内容毎に達成された具体的な目標の達成度を、裨益者数など申請書に記載された「成果を測る指標」を用いて記載して下さい。</p> <p>●コミュニティセンターの建設</p> <p>成果 コミュニティセンターの建設により、ローカーストの住民が会議に参加することが可能となり、双方のカーストの参加で議論の公平性が保たれる。</p> <p>指標 ハイカースト中心であった住民会議に、ローカースト利用者数の住民 60%が参加するようになる。利用者を記録してリストを作成する。</p> <p>●コミュニティ・セミナーの開催</p> <p>成果 コミュニティ・セミナーの実施を通して、住民がコミュニティの問題を理解し、解決に向けて現地政府と話し合いながら解決していく。指標 65%以上の参加者が地域の実情を理解し、問題解決への協力体制が構築される。リーダーが役割を認識し、現地政府に提案できるようになる。リーダーの役割はセミナーで確認しフォローアップする。</p> <p>●能力向上トレーニング及び啓蒙活動</p> <p>成果 各種技術研修を通して具体的に活動が開始され、収入向上及び生活改善がなされると同時に農村の人材開発に寄与する。</p> <p>指標 ①経営研修を受けた 77 の女性自助グループがビジネスをスタートさせるためにグループの銀行口座を開設し、その内 40 グループ (200 名) が実際に収益を上げる事業を行う (アンケート調査)。②収入向上研修を受けた 77 の女性自助グループの 2 期目の月間収入が平均約 Rs. 3,000~Rs. 5,000 に向上する (インタビュー調査)。③農業研修で農薬使用を 25%減少し、土壌改善により生産性が 20%向上する。農家の年間収入は平均 Rs. 15,000 から Rs. 30,000~Rs40,000 に向上する。④青年及び女性の技術向上で、月 5,000 ルピーが得られる。⑤今まで一度も幼児教育訓練を受けた事のない教師が幼児教育訓練を受けることで知識が増え、教え方が良くなり適切な子供のケアができるようになる。教師の質の向上についてのアンケート調査による自己評価。⑥これまで脚本を書けなかった演劇グループが研修を通して自ら脚本を書けるようになり、その脚本をもとに上演することで地域の問題解決につながる。教育、ジェンダー等少なくとも 5 回の違ったテーマで 10 ヶ村を巡回する。その上演を観た住民の反応等を見る。</p>
(4) 持続発展性	<p>達成された事業の成果が今後、どのように維持・継続される見通しであるかについて記載して下さい。事業の効果が一時的なものにとどまらないかを判断するための材料とします。N 連事業の終了後に、事業の成果を維持していくための計画を記載して下さい。(ハード事業において建設した建物の維持・管理方法や、教育支援事業等のソフト事業がどのように現地提携団体に引き継がれていくか等)。</p> <p>3年間で基本的な住民参加型のコミュニティ開発を実施し、10ヶ村をモデル地区として、貧困削減のための開発計画モデルプロジェクトの基盤を作る。既に1年目で成果の兆しが現れており、また住民も信頼して共に住民参加の地域を創造しようとしていることから持続発</p>

展性の可能性は充分にある。複雑な問題を抱えるインドの他村においても応用できる意義あるプロジェクトとなるであろう。

本事業は、ICA、HCDI、村落開発委員会、現地政府が一体となって活動を推進する。事業期間中に育成されたリーダーが中心となって参加型の住民会議を行い、事業終了後は住民が主体となって、活動を継続することで新たなリーダーが育成される。特に女性リーダーは習得した技術を活用して、小規模事業をスタートさせ、収入向上など地域経済の発展にも繋がる。指導した技法はマニュアルを作成し、参加者以外の住民への技術、知識の伝達を図る。